

日本内部監査協会発行資料の新旧対照表

当協会発行の下記資料に翻訳の変更がありましたので、下記の通りお知らせいたします。
付録のテンプレートにつきましても、同文言を変更いたしております。

資料名	該当頁数	該当箇所	旧	新
内部監査人協会（I I A） 『品質評価マニュアル—2024年版—』 （初版、初版第2刷）	viii頁	箇条書き、上から2つ目	・内部監査部門がドメイン I（内部監査の目的）を達成したかどうかを評価する 手法	・内部監査部門がドメイン I（内部監査の目的）を達成したかどうかを評価する 方法
		箇条書き、上から4つ目	・推奨される 手法 を実施するために、	・推奨される 方法 を実施するために、
	ix頁	下から4行目	旧版の著者及び 適正な手続 を	旧版の著者及び デュー・プロセス を
	2頁	「本書の目的」上から3行目	推奨される 手法 が記載されている。	推奨される 方法 が記載されている。
		「対象読者」上から2行目	各章では評価 手法 の概要を説明しており、	各章では評価 方法 の概要を説明しており、
		同上、上から4行目	用語と 手法 、特に	用語と 技法 、特に
	3頁	箇条書き、上から4つ目	・第5章は、内部監査部門による内部監査の目的（ドメイン I）の達成を評価する 手法 を	・第5章は、内部監査部門による内部監査の目的（ドメイン I）の達成を評価する 方法 を
		箇条書き、上から5つ目、上から3行目	推奨される 手法 を実施するために、	推奨される 方法 を実施するために、
		箇条書き、上から6つ目、上から2行目	評価を実施するための 手法 について	評価を実施するための 方法 について
	4頁	下から7～5行目	このマニュアルの 手法 は主に「グローバル内部監査基準」の要求事項に基づいているが、原則の達成の 結論 など、「グローバル内部監査基準」では要求されていない 特徴 もあることから、	このマニュアルの 方法 は主に「グローバル内部監査基準」の要求事項に基づいているが、原則の達成に 関する結論付け など、「グローバル内部監査基準」では要求されていない 事項 もあることから、
	5頁	「グローバル・ガイダンス」上から3行目	実施に推奨される 手法 とその内容、	実施に推奨される 方法 とその内容、
	6頁	上から3～4行目	個々の内部監査業務の 一環 として、基準13. 4（評価規準）では、取締役会と最高経営者がレビュー 対象 の活動が	個々の内部監査業務の 計画策定の一環 として、基準13. 4（評価規準）では、取締役会と最高経営者がレビューの 対象となる 活動が
		下から3行目	又は推奨される品質評価 手法 を適用することが	又は推奨される品質評価 方法 を適用することが
	7頁	「専門職としての判断の役割」上から1行目	このマニュアルで推奨されている品質評価 手法 は、	このマニュアルで推奨されている品質評価 方法 は、
	9頁	図表2、A 2の行、「概要」の列	品質評価の完了に必要な種類の文書で、 相互参照 が	品質評価の完了に必要な種類の文書で、 インデックスと相互参照 が
同上、A 3の行、「概要」の列		ドメイン II における プロセスの説明 ドメイン II における 基準への適合性に関する 内部監査部門長のコメント	ドメイン II の 基準への適合性に関する 、内部監査部門長による プロセスの説明とコメント	
同上、A 4の行、「概要」の列		ドメイン III における プロセスの説明 ドメイン III における 基準への適合性に関する 内部監査部門長のコメント	ドメイン III の 基準への適合性に関する 、内部監査部門長による プロセスの説明とコメント	

資料名	該当頁数	該当箇所	旧	新
内部監査人協会（I I A） 『品質評価マニュアル—2024年版—』 （初版、初版第2刷）	9頁	図表2、A5の行、「概要」の列	ドメインIVにおけるプロセスの説明 ドメインIVにおける基準への適合性に関する内部監査部門長のコメント	ドメインIVの基準への適合性に関する、内部監査部門長によるプロセスの説明とコメント
		同上、A6の行、「概要」の列	ドメインVにおけるプロセスの説明 ドメインVにおける基準への適合性に関する内部監査部門長のコメント	ドメインVの基準への適合性に関する、内部監査部門長によるプロセスの説明とコメント
		同上、C3の行、「概要」の列	2つの質問：その他のプロバイダへの内部監査部門の連携と依存について、	2つの質問：その他のプロバイダによる内部監査部門との連携と依拠について、
		同上、D6の行、「概要」の列、上から2行目	裏付けるために、監査調書のレビュー結果を	裏付けるために、個々の内部監査業務の調書のレビュー結果を文書化する。
		同上、E2の行、「概要」の列、上から1行目	フィールドワークで閲覧した文書から得た結論の要約、	フィールドワーク資料から得た結論の要約、
		同上、G1の行、「概要」の列	基準への適合性を示す	「グローバル内部監査基準」への適合性を示す
	14頁	上から3行目	この手法では、評価者は	この方法では、評価者は
	15頁	上から10行目	実施や行動の記録を確認する手法を用いるべきである	実施や行動の記録を確認する方法を用いるべきである
	16頁	上から1～2行目	レビュー対象がどのレベルで活動しているかを判断することができる。レビュー対象の活動の成熟度は、	レビューの対象となる活動がどのレベルで運営されているかを判断することができる。レビューの対象となる活動の成熟度は、
		上から5行目	評価する手法について説明する。	評価する方法について説明する。
		見出し	品質のアシュアランスと改善の報告モデル	品質のアシュアランスと改善のプログラムの結果報告のためのモデル
	17頁	「品質のアシュアランスと改善の報告モデル」上から3行目	要求される手法と推奨される手法を示している。	要求される手法と推奨される方法を示している。
		図表4「部分的に達成している」の行、「総合的な適合性の達成に関する結論」の列、上から3行目	側面を完全には達成しておらず、	ドメインIの側面を完全には達成しておらず、
	18頁	箇条書きの下の段落、上から1行目	関連する原則の達成に関する結論とは別に、基準への適合に	関連する原則の達成に関する結論とは別に、基準への適合性に
	20頁	図表5「最適化」の行、上から1行目	プロセスは測定可能なほど最適化されており、	プロセスは測定可能なほど十分に最適化されており、
		同上「最適化」の行、下から2行目	信頼できるアドバイザー及びパートナーとして	信頼されるアドバイザー及びパートナーとして
		同上「管理された」の行、上から3行目	内部監査の効率と有効性を高めている。	内部監査の効率性と有効性を高めている。
		同上「統合された」の行、上から2行目	リスク・ベースの内部監査計画とパフォーマンスに	リスク・ベースの内部監査の計画とパフォーマンスに

資料名	該当頁数	該当箇所	旧	新
内部監査人協会（I I A） 『品質評価マニュアル—2024年版—』 （初版、初版第2刷）	20頁	図表5「基盤がある」の行、上から1行目	内部監査基本規程と確立された 方法論 があり、	内部監査基本規程と確立された 手法 があり、
		同上「成熟度評価」の列、下から1つ目の枠	初期的 （Initial）	初期段階 （Initial）
	22頁	下から2～1行目	継続的モニタリングを支えるプロセスと 手順 は、内部監査部門の 手続 に組み込まれる。	継続的モニタリングを支えるプロセスと 手続 は、内部監査部門の 手法 に組み込まれる。
	23頁	上から9行目	計画 、実施、報告、進捗状況のモニタリング	計画策定 、実施、報告、進捗状況のモニタリング
	25頁	上から5行目	評価者の 能力 と独立性、	評価者の 専門的能力 と独立性、
	26頁	「外部評価者の選定」上から5～6行目	総合的な 能力 を備えているべきである。	総合的な 専門的能力 を備えているべきである。
	27頁	上から5行目	別個の 内部監査の業務 として、文書化する。	別個の プロジェクト として、文書化する。
	28頁	下から3行目	コンソーシアムの 手法 を補完することができる。	コンソーシアムの 方法 を補完することができる。
	30頁	「はじめに」上から5行目	評価者の 能力 の規準を明らかにするために、	評価者の 専門的能力 の規準を明らかにするために、
		下から5行目	・取締役及び 経営陣	・取締役及び 経営管理者
		下から3行目	・その他のアシュアランス 業務 の提供者	・その他のアシュアランス・ プロバイダ の提供者
	31頁	箇条書き、上から2つ目、上から2行目	自己評価に 固有 のリスクを軽減する。	自己評価に 内在する リスクを軽減する。
	33頁	上から3～4行目	内部監査部門長は、各グループ（ 経営陣 と内部監査担当者）が質問事項にどのように回答するかを推測し、2つのサーベイ（ 経営陣 向けと内部監査担当者向け）	内部監査部門長は、各グループ（ 経営管理者 と内部監査担当者）が質問事項にどのように回答するかを推測し、2つのサーベイ（ 経営管理者 向けと内部監査担当者向け）
		箇条書き、上から1つ目、下から3行目	経営陣 のスケジュールに合わせるために、	経営管理者 のスケジュールに合わせるために、
	35頁	図表6「フィールドワーク」の行、「独立した検証者」の列	プログラムの 実施手順 のサンプルと結論を検証する。	プログラム・ ステップ のサンプルと結論を検証する。
	38頁	「品質評価の結論としての内部監査の目的」下から4行目	取締役会と 経営陣 が内部監査部門のアシュアランス業務及びアドバイザー業務	取締役会と 経営管理者 が内部監査部門のアシュアランス業務及びアドバイザー業務
		同上、下から1行目	評価するための十分な総合的な 能力 に依存	評価するための十分な総合的な 専門的能力 に依存
	39頁	「ドメインIの主題の構成要素」見出し	2. 監査委員会と 経営陣 の支援	2. 監査委員会と 最高経営者 の支援
		見出し2.、箇条書き、下から1つ目	・内部監査の目的を適用する上でどのような障壁が存在するか。	・内部監査の目的を適用する上でどのような障壁が存在するか。 そうした障壁を取り除き、克服するために、どのような取り組みがなされているのか。
	40頁	上から3行目	3. 内部監査部門は、取締役会と 経営陣 による意思決定と	3. 内部監査部門は、取締役会と 経営管理者 による意思決定と
箇条書き6.、上から1行目		6. 内部監査の専門職としての総合的な 能力 と、	6. 内部監査の専門職としての総合的な 専門的能力 と、	

資料名	該当頁数	該当箇所	旧	新
内部監査人協会（IIA） 『品質評価マニュアル—2024年版—』 （初版、初版第2刷）	40頁	箇条書き7.、上から1～2行目	取締役会と 経営陣 に対して、独立して、リスクに基づき、客観的なアシュアランス、 アドバイス 、	取締役会と 経営管理者 に対して、独立して、リスクに基づき、客観的なアシュアランス、 助言 、
		下から6行目	効果的なアシュアランス、 アドバイス 、	効果的なアシュアランス、 助言 、
	42頁	見出し	結論を導く 手法	結論を導く 方法
	44頁	下から1行目	能力 を開発する責任を委譲する場合がある。	専門的能力 を開発する責任を委譲する場合がある。
	46頁	上から5～6行目	アシュアランス業務 又は アドバイザリー業務 の評価を	アシュアランス 又は アドバイザリー による評価を
		基準1.3、上から7行目	内部監査部門の法令や 規制への準拠 に関する	内部監査部門の法令や 規則の遵守 に関する
		下から10行目	上級経営陣 が法令、規制、又は組織体の倫理規定に	最高経営者のメンバー が法令、規制、又は組織体の倫理規定に
	47頁	下から4～3行目	評価の アプローチ により、レビュー 対象 の活動の	評価の 方法 により、レビューの 対象となる 活動の
		下から1行目	内部監査人が 経営陣 に反対することを	内部監査人が 経営管理者 に反対することを
	48頁	上から1行目	職業的 懐疑心及び専門職としての勇気が	専門職としての 懐疑心及び専門職としての勇気が
		上から2行目	内部監査人が 不適切 な影響を受けることなく	内部監査人が 不当 な影響を受けることなく
		基準2.2、上から7行目	検証の対象として選択された 個々の内部監査業務 に、	検証の対象として選択された プロジェクト に、
	49頁	原則3、上から1行目	品質の高い、価値あるアシュアランスと アドバイス を提供するために、	品質の高い、価値あるアシュアランスと 助言 を提供するために、
		基準3.1、上から1行目	必要な 能力 を保有又は獲得	必要な 専門的能力 を保有又は獲得
		同上、上から5行目	戦略、及び コンピテンシー ・モデルをレビューして、	戦略、及び 専門的能力 のモデルをレビューして、
	50頁	基準3.2、上から1～2行目	価値ある アシュアランス業務 と アドバイザリー業務 を遂行できるようになる。	価値ある 個々のアシュアランス業務 と 個々のアドバイザリー業務 を遂行できるようになる。
		原則4、上から4行目	及び 職業的 懐疑心を適用することも含まれる。	及び 専門職としての 懐疑心を適用することも含まれる。
	51頁	下から1行目	評価者は、 アシュアランス業務 及び アドバイザリー業務 の	評価者は、 個々のアシュアランス業務 及び 個々のアドバイザリー業務 の
	52頁	上から2行目	評価者は、 内部監査計画 において他のアシュアランスの 提供者 がカバーした範囲や、	評価者は、 内部監査の計画 において他のアシュアランス・ プロバイダ がカバーした範囲や、
	59頁	図表7、項目名	適合性への 影響の結論	適合性の 結論への影響
同上、「シナリオ」の列、上から1つ目の枠、上から1～2行目		新しい規制や 外部環境のその他 の変化により、	新しい規制 又はその他の外部環境 の変化により、	
同上、「適合性への影響の結論」の列、上から3つ目の枠、上から1行目		内部監査部門は、 限られた 権限の範囲内で	内部監査部門は、 限定された 権限の範囲内で	
同上、上から3行目		しかし、「 内部監査の目的 」を含む	しかし、 原則6 、又は「 内部監査の目的 」を含む	
60頁	基準6.2、上から4行目	組織体における位置付け、 報告関係 、	組織体における位置付け、 指示・報告関係 、	

資料名	該当頁数	該当箇所	旧	新
内部監査人協会（I I A） 『品質評価マニュアル—2024年版—』 （初版、初版第2刷）	61頁	原則7、上から2行目	内部監査部門長の職務上の報告関係と	内部監査部門長の職務上の指示・報告関係と
		基準7.1、上から3行目	取締役会への直接の報告経路は	取締役会への直接的な指示・報告経路は
	62頁	上から1～2行目	取締役会への直接の報告経路が認められていない場合や、	取締役会への直接的な指示・報告関係が認められていない場合や、
		上から3行目	評価者は、これらの組織の間の報告関係によって、	評価者は、これらの組織体における指示・報告関係によって、
		上から5行目	部門運営上は下位レベルの経営陣に報告するが、	部門運営上は下位レベルの経営管理者に報告するが、
		基準7.2、下から5行目	内部監査部門のコンピテンシー・モデルを	内部監査部門の専門的能力のモデルを
		同上、下から3行目	評価者は、コンピテンシー・モデル、目標達成への	評価者は、専門的能力のモデル、目標達成への
	63頁	下から5～4行目	品質の内部評価の結果、インタビューをレビューして、取締役会が内部監査部門の負託事項を遂行し内部監査の計画を完了する能力に関して十分な情報を	品質の内部評価の結果、及びインタビューをレビューして、内部監査部門がその負託事項を遂行し内部監査の計画を完了する能力に関して、取締役会が十分な情報を
	69頁	基準9.1、上から4～5行目	内部監査の計画、アシュアランス業務及びアドバイザリー業務を遂行するための業務計画を	内部監査の計画、個々のアシュアランス業務及び個々のアドバイザリー業務を遂行するための個々の内部監査業務の計画を
	70頁	上から3～4行目	及びその他の社内のアシュアランス提供者とのインタビューにさらに依存する必要がある	及びその他の内部のアシュアランス・プロバイダとのインタビューにさらに依拠する必要がある
		上から5行目	内部監査部門の負託事項が	内部監査部門への負託事項が
		上から9行目	内部監査部門の負託事項が	内部監査部門への負託事項が
		基準9.2、上から4行目	定期的にレビューしなければならない。	定期的にレビューしなければならない。
	71頁	基準9.3、上から7行目	特に内部監査部門長がすべての監査業務に	特に内部監査部門長がすべての個々の内部監査業務に
		下から2行目	業務の計画、実施、報告に	業務の計画策定、実施、報告に
	73頁	第3段落、上から1行目	評価者はまた、アシュアランス業務とアドバイザリー業務のバランス	評価者はまた、個々のアシュアランス業務と個々のアドバイザリー業務のバランス
		同上、上から3～4行目	アドバイザリー業務とアシュアランス業務のバランスは	個々のアシュアランス業務と個々のアドバイザリー業務のバランスは
		同上、下から2行目	内部監査人がアドバイスを提供する	内部監査人が助言を提供する
		第4段落、上から1行目	内部監査部門への負託事項に関する業務範囲が	内部監査部門へ負託された業務範囲が
		基準9.5、上から1行目	内部及び外部のアシュアランス業務のプロバイダと連携することにより、	内部及び外部のアシュアランス・プロバイダと連携することにより、
	75頁	基準10.1、箇条書き、上から2つ目、上から1行目	・アウトソーシングやコソーシングの検討も含めた内部監査計画の	・アウトソーシングやコソーシングの検討も含めた内部監査の計画の
		同上、箇条書き、下から2つ目、上から1行目	発見事項の管理テクノロジーなど、	課題の管理テクノロジーなど、

資料名	該当頁数	該当箇所	旧	新
内部監査人協会（I I A） 『品質評価マニュアル—2024年版—』 （初版、初版第2刷）	75頁	基準10.1、箇条書き、下から1つ目	・内部監査計画の実施に必要となる、知識と能力の維持に	・内部監査の計画の実施に必要となる、知識と専門的能力の維持に
	76頁	基準10.2、上から3行目	内部監査部門長は、特定の業務を遂行する	内部監査部門長は、特定の個々の内部監査業務を遂行する
		同上、下から8行目	IIAの内部監査の能力のフレームワーク	IIAの内部監査の専門的能力のフレームワーク
	77頁	原則11、上から2行目	信頼を確立・維持し、関係者が	信頼を確立・維持し、ステークホルダーが
		下から3～2行目	内部監査の業務において直接カバーされていないリスクを、経営陣が受け入れていること	個々の内部監査業務において直接カバーされていないリスクを、経営管理者が受け入れていること
	78頁	基準11.1、上から6行目	手法を開発しているかどうかを	方法を開発しているかどうかを
		同上、第2段落、上から3～4行目	内部監査部門長が上級経営陣のリーダーシップ会議に	内部監査部門長が最高経営者とリーダーシップ会議に
		同上、下から4行目	組織体が、アシュアランス業務、アドバイス業務、及びその他の	組織体が、アシュアランス、助言、及びその他の
	79頁	基準11.2、上から7行目	これには、コンピテンシー・モデルをレビューし、	これには、専門的能力のモデルをレビューし、
	80頁	上から4行目	評価者は、最終的な監査業務のコミュニケーション、	評価者は、個々の内部監査業務の最終的なコミュニケーション、
		上から4つ目の段落、下から2行目	根本的な原因とそれを改善するためのアドバイスが	根本原因とそれを改善するための助言が
		基準11.4、上から2行目	個々の内部監査業務結果の	個々の内部監査業務の結果の
	81頁	基準11.5、上から3行目	内部監査部門長は、それでもなおこの問題が解決されていないと判断した	内部監査部門長は、それでもなお最高経営者がこの問題を解決していないと判断した
		同上、下から8行目	適切な経営陣のメンバー及び	適切な経営管理者のメンバー及び
	83頁	上から2行目	アシュアランス業務及びアドバイザリー業務のサンプルを	個々のアシュアランス業務及び個々のアドバイザリー業務のサンプルを
		下から6行目	評価者は、コンピテンシー・モデル、監査計画、	評価者は、専門的能力のモデル、監査計画、
	84頁	基準12.3、上から1～2行目	アシュアランス業務とアドバイザリー業務の日常的な監督、内部の品質のアシュアランス評価、及び内部監査人の能力開発は、	個々のアシュアランス業務と個々のアドバイザリー業務の日常的な監督、内部の品質のアシュアランス評価、及び内部監査人の専門的能力開発は、
		下から2～1行目	内部監査手法に準拠して監査業務が実施されるように、監査業務全体を通じて	内部監査手法に準拠して個々の内部監査業務が実施されるように、個々の内部監査業務全体を通じて
	85頁	上から5行目	内部監査人の能力の開発は、	内部監査人の専門的能力の開発は、
		上から6行目	内部監査部門長及び個々の内部監査の監督者からの、	内部監査部門長及び個々の内部監査業務の監督者からの、
		「まとめ」の上の段落、下から4行目	品質プロセス、及び能力の開発も	品質プロセス、及び専門的能力の開発も
	88頁	「概要」上から2～3行目	経営陣と協力して適切な	経営管理者と協力して適切な
	89頁	原則13、上から1行目	個々の内部監査業務の計画の質に	個々の内部監査業務の計画策定の質に

資料名	該当頁数	該当箇所	旧	新
内部監査人協会（I I A） 『品質評価マニュアル—2024年版—』 （初版、初版第2刷）	89頁	下から6行目	電子メール、 監査 調書	電子メール、 個々の内部監査業務 の調書
	90頁	基準13.2、上から1行目	レビュー 対象 の活動のビジネス目標	レビューの 対象 となる活動のビジネス目標
		同上、上から5行目	内部監査の手法、及び 監査 調書をレビューして、	内部監査の手法、及び 個々の内部監査業務 の調書をレビューして、
		同上、1つ目の○、上から1行目	○健全で、リスクに基づいた 個々の内部監査業務目標 を策定	○健全で、リスクに基づいた 個々の内部監査業務の目標 を策定
		同上、下から3行目	アドバイザリー 業務では、 業務リスクの評価 は必要ない場合も	個々のアドバイザリー 業務では、 個々の内部監査業務におけるリスク評価 は必要ない場合も
		基準13.3、上から1行目	目標と 範囲 が適切に	目標 及び 範囲が適切に
		下から3行目	内部監査の手法は、 監査の目標と範囲 の	内部監査の手法は、 個々の内部監査業務の目標及び範囲 の
	91頁	基準13.4、上から1行目	内部監査人に、レビュー 対象 の活動を評価	内部監査人に、レビューの 対象 となる活動を評価
		下から4行目	レビュー 対象 の活動の有効性を	レビューの 対象 となる活動の有効性を
	92頁	基準13.5、上から1～2行目	重要な要素は、 個々の内部監査業務の合意された 目標と範囲を達成するために	重要な要素は、 合意された個々の内部監査業務の 目標と範囲を達成するために
		同上、上から5行目	個々の内部監査業務の 計画 では、その業務の複雑さや	個々の内部監査業務の 計画策定 では、その業務の複雑さや
	93頁	下から3つ目の○、上から1行目	○個々の内部監査業務の実施に必要な 能力 が考慮され、	○個々の内部監査業務の実施に必要な 専門的能力 が考慮され、
		下から2行目	内部監査部門のアシュアランスと アドバイスの	内部監査部門のアシュアランスと 助言の
	94頁	基準14.1、上から2行目	・内部監査の手法は、 個々の内部監査 の発見事項を	・内部監査の手法は、 個々の内部監査業務 の発見事項を
		基準14.2、上から4行目	さらなる 個々の内部監査の業務	さらなる 個々の内部監査業務
		下から4行目	分析され、 潜在的な個々の内部監査業務 の発見	分析され、 個々の内部監査業務の潜在的な 発見
		下から2行目	○ 潜在的な監査 の発見事項	○ 個々の内部監査業務の潜在的な 発見事項
	95頁	基準14.3、箇条書き、1つ目、上から3行目	別の 手法 を採用することもある。	別の 方法 を採用することもある。
		下から4～3行目	個々の内部監査業務の結果がレビュー 対象 の活動の改善に	個々の内部監査業務の結果がレビューの 対象 となる活動の改善に
	96頁	基準14.5、上から1行目	基準14.5では、内部監査人が 監査 の目標に関連した 監査 の結論を	基準14.5では、内部監査人が 個々の内部監査業務 の目標に関連した 個々の内部監査業務 の結論を
同上、上から4行目		（基準13.3（ 個々の内部監査業務の目的と範囲 ）を参照）。	（基準13.3（ 個々の内部監査業務の目標及び範囲 ）を参照）。	
97頁	基準14.6、上から1行目	個々の内部監査業務の 計画 と実施の	個々の内部監査業務の 計画策定 と実施の	
	同上、上から4行目	・内部監査の手法は、 監査 の各段階間の	・内部監査の手法は、 個々の内部監査業務 の各段階間の	
99頁	基準15.2、下から3行目	リスク・ベースの 手法 に	リスク・ベースの 方法 に	

資料名	該当頁数	該当箇所	旧	新
内部監査人協会（IIA） 『品質評価マニュアル—2024年版—』 （初版、初版第2刷）	102頁	「ベンチマークによる継続的な改善」下から7行目	アシュアランスと アドバイス を	アシュアランスと 助言 を
	104頁	上から3行目	個々の内部監査人及び内部監査部門の 能力 の訓練、	個々の内部監査人及び内部監査部門の 専門的能力 の訓練、
		上から6行目	及び 報告 関係	及び 指示・報告 関係
		レベル2、上から1行目	このレベルの内部監査部門には、 監査 を	このレベルの内部監査部門には、 個々の内部監査業務 を
		レベル3、上から3～4行目	この内部監査部門は、 他の社内外 のプロバイダと連携し、アシュアランス業務及びアドバイザリー業務の独立した 提供者 としての	この内部監査部門は、 その他の内部及び外部 のプロバイダと連携し、アシュアランス業務及びアドバイザリー業務の独立した プロバイダ としての
	105頁	レベル4、上から5行目	監査の管理と意思決定にデータ主導の アプローチ を	監査の管理と意思決定にデータ主導の 方法 を
		同上、下から1行目	この内部監査部門は戦略的な アドバイス を	この内部監査部門は戦略的な 助言 を
		レベル5、下から4行目	将来を見据えたインサイトと アドバイス を	将来を見据えたインサイトと 助言 を
	111頁	同上、下から2行目	テーマ 、及び事業部門と	課題 、及び事業部門と
		下から5～6行目	個々の内部監査業務 についてレビューされた証拠や 調書 は、	プロジェクト についてレビューされた証拠や 監査調書 は、
113頁	「テンプレート」上から1行目	品質評価マニュアル2024年版 テンプレート は、	品質評価マニュアル2024年版 テンプレート（エクセル） は、	